

風しんぶん



浜松の都心のあるべき姿とは？

まちづくりフォーラム

大激論！ 今こそ夢ある都市再生を考えよう

第1弾



まだまだ夏の暑さも厳しい8月30日(日)、世間では衆議院選の真っ只中で更に熱くなったこの日、静岡文化芸術大学でまちづくりフォーラムを開催しました。



今回のテーマは「今こそ夢ある都心再生を考えよう」でした。今、浜松都心の活力は停滞し、店舗数は減り続け売上高も伸び悩んでいます。そんな中、浜松の都心はこれからどうなっていくのかという市民からの不安な声を多く耳にします。そこで、浜松まちづくりセンターでは、このような市民の声を聞き、まちづくりに対する市民の感心を高め、皆で未来に誇れる都心とはどのようなものかを模索するとともに、創造的で自由で夢ある都心浜松を考えることを目的に、今回第一弾となる都市再生フォーラムを主催いたしました。

浜松市民の都市再生に対する関心は非常に高く、約130名の方々にご参加いただくことができました。名城大学教授の海道清信さんの講演に引き続き、会場との討議では都心について来場者の方々が今の浜松の現状やどのような都心を望むか自由に意見を出し合いました。

第一部

「賑わう都市の戦略とデザイン」
講師：海道清信さん(名城大学都市情報学部都市情報学科 教授)

話題提供として、都市計画やコンパクトシティ論の方面で各地でご活躍されている名城大学の海道清信さんから「賑わう都市の戦略とデザイン」と題してお話をいただきました。現在郊外が著しく発展して、車さえあれば便利という潮流



があります。その一方都心に目を向けてみると賑わいが無くなり衰退化している傾向が見られます。戦後、浜松を始め全国約130都市が焼野原となり多くの都市で戦災復興がなされてきました。しかしそれはどれも自動車利用をベースになされてきたもので、現在の浜松の都心を見ても分かるように、駐車場施設も増え、車がたくさん走っていたりと自動車中心で、地下道が多かったり、木陰など休憩の場も少なく歩行者にとって過ごしにくいものとなってしまっています。このような、車が走り回り超高層ビルが乱立するといった20世紀型都市づくりを今一度見直し、車と歩行者の共存、都会的な賑わいや楽しみのある中心市街地の

再生、専門家だけではなく市民も参加しながら地域の特性を活かしたまちづくりに改善していくことが求められているとのことでした。

都市本来の魅力や特徴を取り戻す為の新しい都市計画を行なった欧米や日本の事例をいくつか取上げられました。街中を自由に走り回ることの出来るシティバイク(デンマーク コペンハーゲン)や、路面電車(富山市LRT等)、歩行者優先道路(イギリス バーミンガム)を積極的に導入するなど、公共交通や歩行者を中心とした都市計画が多く取り入れられているようです。また、再生エネルギーや雨水の再利用など環境共生に着目した開発も行なわれているということでした。

“コンパクトシティ”とは21世紀型都市の将来像で、郊外の市街地化を抑制し、市街地のスケールを都心中心に小さく保つことで、歩ける範囲で生活が出来る住みやすいまちづくりを目指すというものです。“コンパクトシティ”は国土交通省・経済産業省も推奨していて、名古屋や富山でも実践されています。名古屋では「駅そば生活圏」といって地下鉄各駅の半径 400～500メートル以内で歩いて暮らせる生活を目指し開発をすすめているそうです。このように、これからのまちづくりのテーマは大きなビルを建てるなどの量的拡大ではなく、現代の人口減少社会や地球環境問題の深刻化に対応した都市や地域の持続性を支え、生活の質を高める空間を形成していくことが重要だとお話されていました。また海道さんが強調しておられたことは、持続可能で魅力ある都心にしていく為には、都市空間の改善・再生、利害者の取り組みももちろんのこと、一番重要なのは住民がそれらを支持し、行動様式、ライフスタイルを変え、都心だけでなく都市全体の努力が必要であるということでした。



第二部

会場との討議

都心は必要か必要でないか
浜松の都心の現状についてどう思うか
どんな都心を望むか

休憩を挟んで、海道さんのお話を基に会場内で討議が行なわれました。現在の浜松の都心についてどう思うか、どのような都心を夢見ているかなど、外の暑さにも負けにくいぐらいの暑い議論が交わされました。

まずは、都心は必要か必要でないかを会場に問いかけてみたところ大多数の方は必要と答え、4・5人の方は必要でないと答えました。必要で無いと答えた人の中には、自宅の近くに店があれば良い、商業を集中して置く必要は無い、というものや、そもそも都心とは何なのかという核心を付かれるような意見もありました。この意見に対して都心とは行政・業務の中心があり、商業の中心である複合的な場所で、浜松の顔である都心は浜松市民の誇りでありシンボルであるとコメンテーターから意見がありました。



浜松の現状についてどう思うかについての議論では、厳しい意見がたくさん飛び交いました。美術館や博物館などが分散化していて都心に文化的施設が全く無い・若者向けの買い物のためだけにあるようで中高年にとってはまったく魅力が無く楽しくない・地下道のせいで移動がすごく不便・区画整理をやったおかげで逆に人口が郊外に流出してしまい、活気が無くなった等、



浜松での生活の不便さや、まちなかの魅力の乏しさが浮き彫りにされました。また、自分達の地元の商店を知り、活用するなどして市民が協力して商業を成長させていくことが必要ではないかという指摘もいただきました。

どんな都心を望むかについての議論では本当にそうならすばらしいだろうなという、夢ある意見がたくさん出ました。多くの人が集まり賑わいのある都心・美しい風景の中を歩きながら、幅広い年齢層の人が買い物し、文化的なものを鑑賞でき、楽しく休日を過ごせるような都心・新しいことをしよう、チャレンジしようと思えるような都心・他の都心では出来ないけど、浜松の都心だからこそできる何かがある都心。アイデアとして、旧松菱のビルに美術館や博物館等の文化的施設をいっそのこともってきては？という意見も出ました。

今回のフォーラムではこれからの都市づくりはどうあるべきか、今の浜松が直面している問題点や改善点について話し合いました。音楽・文化のまち浜松といわれてはいますが、その浜松の顔である都心がこんなにも衰退化してはいけません。まずは市民一人一人が都市づくりについて感心を持ち、今回のような意見を発することのできる場におもむくことが夢ある都市再生への第一歩であると思います。まずは一人一人の意見を発することが大切です。

～はじめよう、まちづくり～

まちづくり講座(第5期生)がスタートしました。

公募による14名の受講生による今年度のまちづくり講座が5/16(日)からスタートし、9月までに第5回が修了しています。今回も、幅広い年代・地域から受講生が集まり、例年通り初回に受講生の皆さんと相談し、希望する内容を盛り込みながら1年間のカリキュラムを作成しました。今年度は公共交通、中心市街地活性化、農業、観光、景観、地域のまちづくりなどをテーマとした座学・フィールドワークと並行し、「浜松城公園の再編計画」「景観・色彩に配慮した建物調査とルール提案」「商店街の活性化計画」「地域毎の資源の掘り下げ・活用計画」4つのグループに分かれて自主研究を進めていきます。

この講座を通して、まちづくりの基礎的な知識を習得するとともに、グループワークの進め方や人的ネットワークなども広がり、これから地域のまちづくりに取り組んでいくきっかけになればと願っています。



誰もが使いやすく過ごしやすいまちへ

ユニバーサルデザイン学習



【自動販売機のユニバーサルデザインは何か？】

多くの小中学生のお友達が来館し、まちづくりセンターやアクト通りでユニバーサルデザイン学習を行っています。建物や街の中に施された様々な工夫を探ることを通して、ユニバーサルデザインについての理解を深め、誰もが快適に暮らすことのできるまちづくりの大切さや困っている人に手を差し伸べるなど、心のユニバーサルデザインの重要性を学びました。

参加校 東小学校4年生・芳川小学校4年生・泉小学校4年生
北庄内小学校4年生・遠州浜小学校4年生

車からバス・電車・自転車・徒歩へシフトします！

「自動車に乗らない1週間」チャレンジアクション説明会を平成21年8月1日(土)にまちづくりセンターにて行いました。

通勤やお買い物など、普段の生活の中で車利用が多い方を対象にモニターとして1週間以上、なるべく車に乗らない生活を送る実験です。モニター参加者には、8/2(日)～9/18(金)の期間の中で、自分で1週間以上の期間を設定してチャレンジをしていただきました。

日常の中で、「ちょっとジュースを買いに・・・」「ちょっとタバコを買いに・・・」と近くのコンビニなどへ行くときでさえも車を利用していませんか？

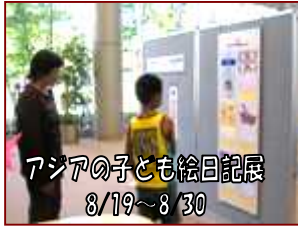
車を利用することが多い生活からシフトすることで一体、どんなことを便利に思い、どんなことを不便に感じるのでしょうか？

このモニターの結果は10月24日(土)のまちづくりフォーラム「環境にやさしい自転車のまちづくり」にて報告いたします。



今までの展示

遠州自然研究会さんによる「遠州自然展」を8月1日(土)から10日(月)まで開催いたしました。今回は、ミヤマキリシマの花の色の変異や馬込川沿いでみられる帰化植物、不思議な形の植物、佐鳴湖に生息している動物など興味深い写真が展示されました。また、9日(日)には出展者による説明会を行いました。写真の背景にある情景説明に参加者のみなさんは聞き入っていました。



世界遺産の会さん主催の「アジアの子ども絵日記フェスタ」グランプリ作品パネル展を8月19日(水)から31日(月)まで開催いたしました。この絵日記展はアジアにある24の国と地域に呼びかけ、集まったものの中から優れた作品を日本各地や海外で紹介します。描かれた作品は豊かな色使いと個性があふれる方法で、素晴らしい自然や文化、習慣、伝統など毎日の生活が表現され、その国の様子をうかがえる絵日記でした。

これからのサロン展示

- 9/24(木)～10/9(金) **朝鮮通信使展** (主催:静岡県余暇プランナー協会 西部ブロック)
- 10/11(日)～10/22(木) **「私が出会った世界遺産」写真/ビデオ展** (主催:世界遺産の会)
- 10/24(土)～11/8(日) **第24回国民文化祭しずおか2009** (主催:第24回国民文化祭静岡県実行委員会)
- 11/11(水)～11/30(月) **戦国時代の浜松のお城、武将、歴史等にまつわるイベント写真展**
(主催:高橋 勇夫さん)

☆☆☆☆☆インターンシップ生紹介☆☆☆☆☆

静岡文化芸術大学の学生さん4名が夏休みを利用して各10日間の実習を行いました。



こちらで実習させて頂き、自分にできることを一生懸命に取り組む大切さを改めて学びました。小さくて間接的な仕事も、まちの誰かの役に立てていると思うと、とても素敵なものに感じました。また、様々な現場に出向いた時は、非常に衝撃を受けた箇所がいくつかもありました。今まで自分が知ることのなかった浜松市の一面を新たに知ることで勉強になりました。

新たに加わったまちづくり関係団体

(9月10日現在)

No.	団体名	活動の分野	紹介
157	特定非営利活動法人 奥浜名湖観光まちづくりねっと	まちづくり	住民、事業者、行政等と連携をして地域の資源を掘りおこし、魅力と活気のある観光まちづくりに取り組みます。
158	奥浜名湖観光連絡協議会	観光	奥浜名湖地域の観光振興を図るため、地域情報の発信や関係団体との交流連携、各種誘客イベント等に取り組む。
159	NPO法人 浜松やらまいか健康塾	保健	一般市民に対して病気への治癒力抵抗力を高めるしぼりタオル健康法を中心にした健康増進に関する事業を行う。

まちづくり関係団体の活動紹介

歴史を物語る近代化遺産「住吉浄水場ポンプ室」



8月2日(日)に行われた浜松市上下水道フェスタにおいて、静岡県建築士会さんの案内による、住吉浄水場ポンプ室の見学会ツアーが開催されました。当日は天候に恵まれず小雨の降る中でしたが、普段は閉鎖されていて見ることのできない建物内部を一目見ようと多くの方が集まりました。

住吉浄水場ポンプ室は昭和6年に建築され、昭和48年まで天竜川の伏流水を浄水処理した水を、旧市街地を中心とする区域に送り出していたそうです。

当時は急激な人口増加により井戸水の水量・水質が悪化し、上水道敷設を望む声が高まったとのこと。 「市電が先か、水道が先か」との議論があったそうですが、大正13年の異常湧水により水道の必要性が強く叫ばれ、水道計画が可決されたとのこと。もし、その時の異常湧水が無かったら…、浜松にも市電が走っていたかもしれませんね…。いずれにしても、蛇口をひねれば水が出る上水道施設は、当時の人々にとってまさに「魔法の水」であったことでしょう。

建物は鉄筋コンクリート造の平屋建ながら、横のラインが強調された外観は多層構造のように見えます。放物線状の半円窓、玄関のステンドグラス、タイル張りの床面、デザイン性の高い照明器具など、随所に意匠が施されており、当時の人々の水道施設に対する熱い思いがうかがわれます。大小さまざまなポンプや計器類といった重厚な設備も、ほとんどが当時のままの姿で残されています。

現在では建物が老朽化して雨漏りがひどい状態ですが、浜松および上水道施設の歴史を物語る貴重な近代化遺産として、今後建物の耐震性を含めた詳細な調査を行うとともに、利活用の方法についても検討していくとのこと。



防災フェア2009in はままつ

9月の防災週間を前に8月21日(金)から4日間にわたり、「防災フェア2009in はままつ」が内閣府・浜松市・防災推進協議会主催で開催され、浜松まちづくりセンターも会場の一つとして、協力団体による避難所運営ゲームや三遠南信災害ボランティア交流学習会、減災MAPシミュレーションなどが2日間の日程で行われました。

センター利用の初日(22日)は、まちづくり関係団体でもある「NPO法人はままつ子育てネットワークぴっぴ」さんによる「ぴっぴのドキドキ! 防災ゲーム」が開催され、家族連れや子どもたちで賑わいました。

会場は、オリジナルゲームや工作のコーナーが並び、地震が起きた



震災だ。何を持って逃げる？

時の行動を具体的に考えながら進むスゴロク風の大きなボードゲームや5つだけ持って逃げるとしたら何を持って逃げる？のコーナーなどがあり、「自分だったらどうするだろう。」と夢中で考

える子どもたちの姿が見られました。

また、新聞紙スリッパを履いて、災害後の道を卵のパックに見立てその上を歩くコーナーでは、2歳くらいの女の子が感触を確かめながらひたすら歩いている姿や、大人の方も挑戦され

ビニール袋でカッパ作り。



毛布だけが人を運びます。ていました。



まちづくり塾



『ラフターヨガ～笑ってみよう2009～』

6月26日(金)

ラフターヨガとは、ヨガの呼吸法を取り入れた誰にでも出来る笑いのエクササイズです。インドで考案されまだ14年しか経っていませんが、すでに60カ国で6500の団体が設立されるほど注目を浴びています。「うそ笑いで積極的に笑うと身体は笑っていると感じ、前向きな気持ちになります。」と明るく話す有川さんですが、ラフターヨガと出会う半年前までは軽いうつ病で外に出られない状態だったと自身の経験を交えながら「笑いの効果」について紹介しました。また実際に「あいさつラフター」や「ライオンラフター」などの指導も受け、「久しぶりに思いっきり笑いすっきりしました。」と参加者より感想をいただきました。



お話しは・・・
有川 陽大さん
(浜松ラフタークラブびばの会)



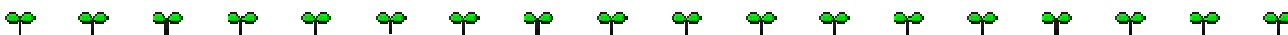
『銅鏡が語る、^{いにしへ}古の遠州』

7月25日(土)



現代のガラス製で出来た鏡は明治以降、江戸時代までは金属で出来ており、ほとんどが鋳物でした。森町八阪神社(伝世鏡)の鏡は柄が無く、吊るすか台座に置き、用いていた様子、三ヶ日佐久城(城跡出土鏡)の鏡は柄鏡になり柄が本体よりも長い物でした。今回は銅鏡の使い方、絵模様と形、神社や寺での存在、についてのお話でした。また、室町時代の書物に床飾りの道具として描かれた柄鏡は、高価であったであろう事が窺えます。時代が古くなる程高価で良い作品があり、佐久城跡まで行きましたが、出土した場所が見られず皆さんにお話できないのが残念でした」との事です。

お話しは・・・
植松 勇介さん
(浜松産業大学非常勤講師)



『(新)米ぬか健康法』

9月6日(日)

日本人の本来の主食は玄米であり、白米ではない。玄米がいかに健康に良いか、玄米を食べ続けて30年以上、60歳になった今でも若々しく元気な江間和光さんからお話を頂きました。なぜ米を炊く前に洗うのか知っていますか？それは米の周りに付いた酸化物つまり腐っている部分を取り除く為です。粕という字は米に白米の白とかいて「かす」とよみますね。実はお米を精米した時に出る糠には95%もの身体に必要な栄養成分が含まれているのにも関わらず、私たちはそれを捨てて残った粕を食べているわけです。玄米を食べて体の内側から健康になりたいと願う約81人もの多くの方々がお越しく下さいました。



お話しは・・・
江間 和光さん
(玄氣倶楽部・・・代表)

次回のまちづくり夜楽塾は・・・

「家康と朝鮮通信使」～朝鮮通信使 浜名湖ウォークを前にして～

9/30(水)

19:00~20:30

今回のお話は・・・澤田 ひろ子さん(静岡県余暇プランナー協会 西部ブロック)

江戸時代、日本と朝鮮の関係修復の目的で朝鮮王朝から幕府に派遣された通信使(外交使節)のお話。



11/21(土)

「広がるひまわりの笑顔の輪」

16:00~17:30

今回のお話は・・・塩崎 明子さん(ひまわり2525プロジェクト)

浜松のまちを元気にするため、地域の子とも連携し、ひまわりを植え、育てています。



「今、山で何が起きているか！～広く、静かに進行する食害～」

11/26(木)

19:00~20:30

今回のお話は・・・鈴木 健一さん(NPO法人天竜川・杣人の会 副会長)

食害が及ばず影響を知り、森林の再生のために何をしていく必要があるかを考えましょう。

朝鮮通信使をめぐる文化のたび 船でわたる今切口

10月10日(土) 小雨決行 10:00 JR新居駅集合～15:30頃 JR舞阪駅解散

私たちのお隣の国 朝鮮とは友好の時と不幸な時がありました。家康は、その関係の転換を計ったひとりです。通信使一行は国王の親書を携えた300～500人もの大使節団。幕府のお声掛けですから街道の町々は上から下まで大騒ぎ。通信使について学び、道中の様子を再現して新居から舞阪までウォークします。

【コース】JR新居駅～土屋主税ゆかりの神宮寺～新居関所～浜名湖渡船～舞阪雁～昼食～脇本陣～東海道松並木
【参加費】¥2,300(保険料・渡船・入館料・ぼく飯の昼食を含む)

【定員】50人(先着順)

【申込み・問合せ先】静岡県余暇プランナー協会 053-437-5205(FAX) 澤田まで

第3回

しずおかスポーツフェスティバル

武術太極拳 西部地域大会

11月1日(日) 9:00～16:30



西部地域における武術太極拳のフェスティバルです。楽しく皆で過ごせる演武会を考えています。集団演武、個人演武、模範演武等が行われます。日頃参加されたことのない方、興味を持っている方、誰でも来てみてください。見学自由です。

【場所】可美公園総合センター体育館

【主催】(財)静岡県体育協会 【実行】浜松市武術太極拳連盟

2009年度 浜松市消費者展

行動しましょう 今!あしたのために

10月17日(土) 11:00～16:00

10月18日(日) 10:00～15:00

【ところ】浜松まちづくりセンター2F

【内容】体験コーナーやパネル展示、特産品の販売(10/18のみ)があります。

また、両日共に先着100名にアルミ缶20個と交換で箸袋のプレゼントがあります。

【主催】浜松市、浜松市消費者団体連絡会

【問合せ先】浜松市消費者団体連絡会事務局 053-425-8091(加藤まで)

体験コーナー

布ぞうりづくり、裂き織り、
マイバックづくり、
米粉麺の試食(10/18)



中小企業の戦略づくり～BSCとは何か(仮題)～

11月7日(土) 13:30～16:30

【場所】ペガサート7F会議室(静岡市葵区御幸町3-21・JR静岡駅より徒歩5分)

【受講料】無料(準備のため、事前にメールにてお申し込み願います)

【申込先】(社)中小企業診断協会 静岡支部(〒410-0054沼津市北高島町19-5)

E-mail:office@shindan-shizuoka.jp



10月・11月の縄文楽校

森の共室 10/4(日) 10:00～12:00 ププリの森へ花の道をつくましよう(午後は森づくり勉強会)

田んぼで稲刈り日 10/18(日) 10:00～15:00 (弁当持参)

森づくり大イベント 10/29(木) 8:40～14:30頃 (弁当有) 豊岡小集合

田んぼで脱穀 11/8(日) 10:00～15:00頃 (弁当持参)昔ながらの足踏み脱穀機

事務局 縄文楽校053-439-5847

年会費
個人・家族 3,000円
賛助 5,000円
団体 10,000円

★★センターからのお知らせ★★

第8回まちづくり作品コンクール

テーマ『人と環境に優しいまちづくり』



浜松まちづくりセンターでは、多くの市民のみなさんにまちづくりに関わっていただき、まちづくりの楽しさや大切さを伝えるため、第8回まちづくり作品コンクールを開催します。『人と環境に優しいまちづくり』をテーマに、「住んでみたいまち」「今住んでいるまちがこうなるといいな」などを表現した作品を募集します。

部門

【小学生の部】市内の小学生<絵画> 1月24日(日)必着。

【中学生の部】市内の中学生のグループ<壁面オブジェ(横2m×縦2m以内)> 10月31日(土)必着。

【高校生以上の部】市内の高校・専門学校・大学に通う学生グループまたは市内在住の社会人グループ<大壁面オブジェ(横4.5m×縦2m以内)またはステージ状床面オブジェ(6m×4m×高さ4m以内)> 10月31日(土)必着。

入賞 各部門ごとに、賞状、記念品。まちづくりセンター祭にて表彰。

詳しくは、ホームページをご覧ください。

まちづくりフォーラム

「環境に優しい自転車のまちづくり 第4弾」

10月24日(土)

公共交通や自転車利用の促進など、人と環境にやさしい取り組みについて参加者と一緒
に考えます。

13:30~16:30

話題提供: 講師: 宮川順次(みやかわ じゅんじ)(静岡文化芸術大学教授)
チャレンジアクション報告(車に乗らない一週間など)
意見交換

静岡文化芸術大学

南279中講義室にて

★入場無料★



申込: 当日、直接会場へお越しください。

11月7日(土) 「大激論! 今こそ夢ある都心再生を考えよう 第2弾」

13:30~16:30

8/30の第1回フォーラムに引き続き、都心再生に関する市民提案のあり方について参加者と討議します。

浜松市立東小学校

基調講演: 「都心再生への道筋・市民提案のあり方」講師: 大西隆(東京大学教授)

体育館にて

市民討議: コメンテータ 大西隆

★入場無料★



コメンテータ 石川岳男(浜松まちづくりセンター長)

コーディネーター 阿蘇裕矢(静岡文化芸術大学 教授)

申込: 当日、直接会場へお越しください。

まちづくり楽校

再発見! 二俣てくてくまち歩き!

二俣のまちに今も生きる蔵や歴史的な建物、二俣川など魅力あふれるまち並みをガイドの説明を聞きながら散策します。

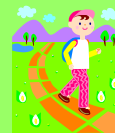
集合場所 ヤマタケの蔵(13:15集合) 駐車場有り

参加費 300円(保険料・資料代)

参加人数 先着20名

申込開始 10月25日(日)から開始

申込先 TEL: 053-457-2616(浜松まちづくりセンター)



11月15日(日)

13:30~16:30

浜松まちづくりセンター通信「はままつ風しんぶん」

発行: 浜松まちづくりセンター(平成21年9月)

430-0929 浜松市中区中央1-13-3

(財)浜松まちづくり公社(指定管理者)

☎053-457-2616 FAX053-457-2617

メール: h-m-c@msi.biglobe.ne.jp

HP: <http://www.hamamatsu-machi.jp/center/>

